

## 地域を牽引するモデル経営

これからの葛巻酪農を牽引するモデル経営

### ①リーディング牧場の創設

- ①高品質生乳生産モデル牛舎（900頭搾乳×1棟）
- ②高品質牛乳生産ミルクプラント（1棟）
- ③中山間酪農経営モデル牛舎（300棟搾乳×3棟）
- ④中山間酪農経営モデル牛舎付属施設
  - ・環境配慮クリーン牛舎
  - ・エネルギー自給牛舎
  - ・インテリジェント牛舎
- ⑤酪農情報センター（1棟）



### 世界一高品質な生乳生産を目指します

衛生的な牛舎環境 → 高付加価値化牛乳

- ・通常より高く販売できる牛乳
- ・無殺菌牛乳など高品質成分牛乳

誰もが酪農に誇りを持てる  
世界最高の品質を確保

## 酪農を基盤とした地域づくり

ふん尿を利用した再生可能エネルギー活用

### ②畜ふんバイオマスによる熱源・電源供給

- ①バイオガスプラント（3カ所）
  - ・町内酪農家の共同利用施設
- ②熱源の地域内供給
  - ・施設園芸への熱供給
  - ・集合住宅への地域暖房システム
- ③電源の施設内利用
  - ・バイオガスプラント
  - ・リーディング牧場



### 酪農を核とした新農山村モデルを目指します

畜ふんバイオマス → 地域に熱源などを供給

- ・熱源の地域暖房などへの供給
- ・電源の農業施設などへの供給

酪農が地域の産業を牽引する  
今までにない地域づくり

テーマ = 東北一の酪農郷くずまき

目標 = 効率的かつ合理的な生産～酪農の高付加価値化

現状（平成25年度）

- 経産牛頭数 4,527頭
- 生乳生産量 35,833トﾝ（日量98トﾝ）
- 個体乳量 7,915kg/年

目標（平成35年度）

- 経産牛頭数 5,600頭
- 生乳生産量 47,600トﾝ（日量130トﾝ）
- 個体乳量 8,500kg/年

## 町全体の酪農生産経営基盤の強化

畜産開発公社の機能強化による酪農家支援対策

### ③公共牧場の機能強化

- ①2500頭の育成牛預託
  - ・周年預託体制の強化
- ②新技術などの実証展示
  - ・次世代展示牧場



意欲ある後継者や新規就農者の支援を行う

### ④個別経営体の規模拡大支援

- ①牛舎新築・増築整備
  - ・牛舎環境整備と規模拡大
- ②粗飼料生産基盤整備
  - ・草地造成や農地の集積



酪農作業を外部に委託して搾乳に集中

### ⑤作業外部化組織の育成

- ①TMRセンター
  - ・餌の供給
- ②コントラクター
  - ・飼料の収穫作業など



# 新葛巻型酪農構想

～100年先まで持続する酪農郷を目指して～

酪農を取り巻く情勢はかつてないほど厳しく、酪農従事者の高齢化や後継者不足などを背景に酪農家戸数、乳用牛飼養頭数がともに減少傾向にあります。こうしたことから、関係機関の専門職員で構成するプロジェクトチームを結成。約1年半の検討を重ね、100年先を見据えた「新葛巻型酪農構想」を策定しました。その概要を紹介します。



## 東北一の酪農郷に危機感 プロジェクトチームを結成

町は、明治25年に乳用牛を導入して以来、先人のためまぬ努力によって、最盛期の平成15年には、生乳生産量が日量1177トﾝに増え、「東北一の酪農郷」として発展してきました。一方、昨今の酪農情勢は厳しく、平成15年をピークに生乳生産量が減少に転じ、その後、回復することなく減少が続き、平成25年には日量98トﾝまで落ち込んでいます。

このままでは「東北一の酪農郷」の存続が危ういと危機感を抱き、平成25年7月に盛岡広域振興局、八幡平農業改良普及センター、県農業公社、新岩手農協などの専門職員をチームリーダーとするプロジェクトチームを立ち上げました。以来、13回に及ぶ会議のほか、町内全ての酪農家の意向調査、北海道や栃木県、アメリカ合衆国への酪農視察などを行い、100年先を見据えた酪農のあり方を検討し、「新葛巻型酪農構想」をまとめました。

## 5つの大きな柱で構想実現を

構想のテーマは、「東北一の酪農郷くずまき」を発展させること。基本目標に「効率的かつ合理的な生産～酪農の高付加価値化」を掲げ、

産牛5600頭、生乳生産日量130トﾝという具体的な目標を、次の5つの大きな柱によって実現しようとするものです。

- ①リーディング牧場の創設で、葛巻の酪農を牽引する先進的なモデル経営体をつくる
- ②家畜のふん尿を利用した畜ふんバイオマスによる熱源と電源の地域内供給
- ③公共牧場（畜産開発公社）の機能強化
- ④個別経営体の規模拡大支援
- ⑤作業外部化組織（TMRセンターやコントラクターなど）の育成

特に、リーディング牧場において、世界一高品質な生乳生産を目指すことと、畜ふんバイオマスによる熱源を地域の住宅や農業施設に供給するという構想は、これまでにない大きな特徴となっています。

構想の実現に必要な事業費は約130億円。国や県の支援を受けながら、平成35年度の実現を目指します。このような酪農振興を図ることに伴って、酪農が地域の関連産業を牽引し雇用が創出されるなど、誰からも喜ばれる地域づくりを進め、酪農を核とした全国に誇れる農山村モデルを目指します。